



「2011年3月11日」。わが国にとって忘れることができない日となつた。未曾有の規模の地震、そして大津波が多くの尊い命と財産を奪つた。さらに、福島第一原子力発電所の事故は、インフラのあり方から、国民生活の根本たるエネルギー、ライフスタイルにまで課題を投げかけた。本紙では、震災復興を水の視点から捉え、わが国の水インフラの質的向上と人と水とのより良い関係のある方を構築すべく、学識経験者・有識者による提言をまとめた特集号を企画した。

# 日本水道新聞

発行所  
日本水道新聞社  
本社: 〒102-0074 東京都千代田区九段南4-8-9  
TEL 03(3264)6721 FAX 03(3264)6725  
編集部直通 03(3264)6722  
大阪支社: 〒541-0051 大阪市中央区難波3-3-9  
TEL 06(6125)3630 FAX 06(6125)3866  
<http://www.suidou-gesundo.co.jp>

## 日本下水道新聞共同編集 水インフラ復興への提言

### ~東日本大震災 水インフラ復興への提言~

# 誇れる日本の水の姿を目指して



北海道立総合研究機構議事長

丹保憲仁氏

2面へ続く

――東日本大震災における被災状況に対する何を思いましたか。  
私は、常々人間活動に対する地球の容量はすでに超えてしまっているのではないかと説いてきました。日本は地震国故に社会インフラに対して大きな投資をして巨大なシステムを構築し、技術力で維持していましたが、この技術力と人の信頼度が低下してしまったら一気に崩壊してしまう。福島第一原子力発電所の状況を見ても戦後社会の弱さを見る思いです。  
これまで人類は、巨大にそして便利なシステムの構築をめざし「安全」では我慢できなくて「安心」まで要求するようになりました。正直、安全は努力を重ねて追求できますが、安心の追求はきりがありません。要は日本国を持つべきアドバイスに対する日々の要求がオーバーパックであったことを日本人が自覚してなかったのです。それが一気に崩壊したこと私は思っています。  
――自然災害に強い水インフラのあるべき姿は。

地上の快適な生活は、地下などの見えない世界にさえられています。山々では、土の中で降り注いだ雨をゆっくりと浄化し、街では、人々があまり目にすることのない浄水場や下水処理場が地域社会に潤いを与えてています。日本の地下には、地球と月を往復できるほどの長い長い水の道※が張り巡らされ、これらの施設と人々の暮らしをつないでいます。「より安全で、より豊かな水環境を、日本の未来へ」。私たちメタウォーターは縁の下の力持ちとして全国の浄水場や下水処理場の保全・進化に貢献し、水資源の確保、温暖化対応などの社会的要請に応えていきます。

※地球から月までの平均距離 約38万キロ (平成22年 国立天文台)  
水道管路 約62万キロ (平成20年度 水道統計)  
下水道管路 約42万キロ (平成21年度 國土交通省)

[www.metawater.co.jp](http://www.metawater.co.jp)

### 本号の紙面

- インタビュー・丹保憲仁氏  
水の安全保障戦略機構議長  
北海道立総合研究機構理事長 ..... 1~2面
- 水の安全保障戦略機構からの緊急提言 ..... 2面
- 有識者からの提言 ..... 3~4面、7~8面  
河田恵昭氏、石川忠男氏、坂本弘道氏、竹村公太郎氏、松井三郎氏、小林康彦氏、吉村和就氏、滝沢智氏、安中徳二氏、沖大幹氏、中北徹氏、虫明功臣氏、御園良彦氏、藤原正弘氏
- フォトレポート・東日本大震災 ..... 5面
- 政治家に聞く水インフラ復興への道筋 ..... 9面  
川端達夫衆議院議員・小野寺五典衆議院議員
- インタビュー・今井義典氏  
日本水フォーラム副会長  
元アジア太平洋放送連合会会長  
元日本放送協会副会長 ..... 10面

下が上をささえてる。

METAWATER

メタウォーター株式会社

〒105-6029 東京都港区虎ノ門4-3-1 城山トラストタワー TEL.03-6403-7500









仙台市の南蒲生浄化センターでは、発災直後に職員ら関係者が管理棟屋上に避難。押し寄せる津波のみ込まれる施設を前に、言葉を失った(仙台市提供)

# 復旧・復興への取り組み

東日本大震災・被害の痕跡



津波により市街地が壊滅した陸前高田市。がれきの上に仮設配管を布設し水道通水を急ぐ



津波により水源が塩水化した石巻地方広域水道企業団の相川浄水場に設置された仮設の浄水施設(日量300立方メートル、セラミック膜)



陸前高田市では、下水処理場の代替として日立プラント建設サービスの提案により緊急対策としてMBRプラントを導入、同市鳴石地区で応急汚水処理を実施



下水道地震・津波対策技術検討委員会一行は南蒲生浄化センターを視察。施設壁面は津波の衝撃で湾曲している



石巻市内で応急給水活動に当たる三原市水道部の支援隊。全国からの応急給水支援は、被災住民にとって心強いものとなった



津波により管路に甚大な被害が発生したもの、浄水施設が無事だった大槌町では、仮設配管により迂回ルートを構築。山間部の津波被害を受けなかつた地域への通水を実現した



大船渡市・大船渡浄化センターでは市職員らにより迅速な応急対応が行われた。資材が無いなか職員があり合わせの資機材で応急配管を行い汚水流入に対応した



東松島市の避難所となった矢本第一中学校では下水道マンホール上に設置されたマンホールトイレ9基が避難者用トイレとして活用された



厚生労働省は5月8日から4日間、宮城・岩手・福島県内における水道施設の被害状況等を調査









